

## 北極圏旅行記 2017-2018 冬 (13)

～12/30 北極圏の地球影～

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

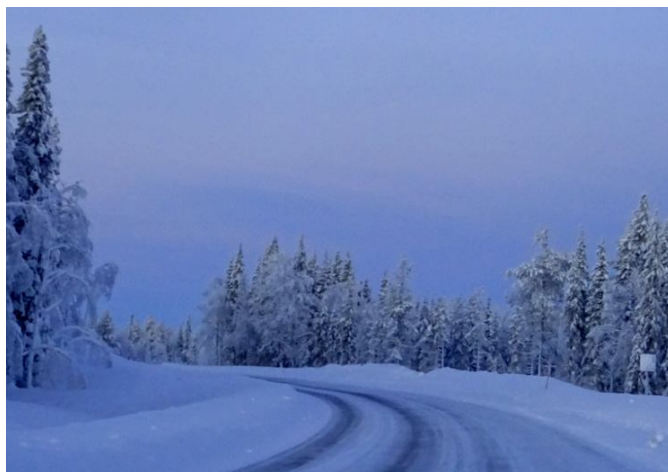
スウェーデン北部の北極圏には、著名な観光地は少ない。唯一、冬でも賑わっているのは、ユッカスヤルビ(ユッカス湖)にある、アイス・ホテルだ。12月30日にそこに行ってみることにした。



早朝からよく晴れていた。晴れているということは、気温が低いことを意味する。写真は、宿泊したスノー・キャビンの庭にある納屋である。もとは、オーナーの父親が家畜を飼っていたらしいが、今は物置になっている。中には大量に薪があつて、暖炉の燃料に自由に使えるようになっている。



この朝も気温は $-20^{\circ}\text{C}$ 以下。車は出発の30分ぐらい前から準備が必要だ。雪を落とし、エンジンをかけて、フロントガラスの氷を溶かしておかないと、出発できない。

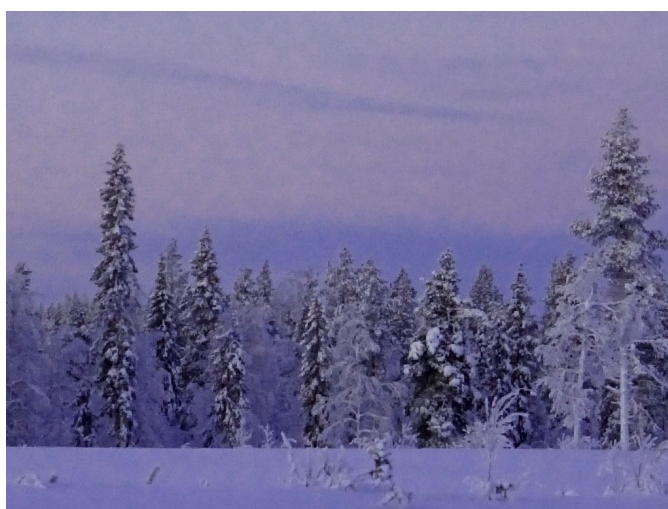


(2ページ目に拡大写真)

北に向かって走ると、すぐに森の上に「地球影」が見えた。日本では日の出直前と、日没直後にしか見られないが、冬の北極圏では、長時間見え続ける。



「日本での地球影」(埼玉県小川町で撮影)



地球影(ちきゅうえい)は、地球そのものの影が、大気に映って見える現象だ。太陽が地平線直下にある時、太陽と反対側の空に短時間だけ見える。しかし、冬の北極圏では、太陽が地平線下すれすれを日周運動するので、地球影が見える条件が長時間続くことになる。これも、この季節この地ならではの景観である。



